

標本資料の製作・受入・保存・修復

標本資料の製作費として賛助会費を活用いたしました。

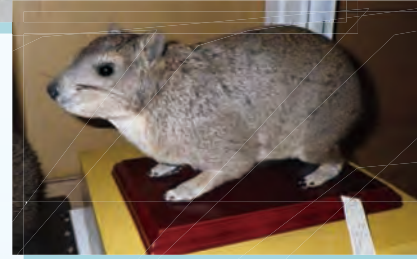
● 標本資料の製作

動物園で死亡した個体の標本化

今年度も賛助会費の支援によって、多くの動物園死亡個体を当館で受け入れ、骨格標本として作製することができました。2020年度は、哺乳類：141点、鳥類：50点、爬虫両生類：7点、の合計198点の動物園で死亡した個体を当館で回収し、標本化を行いました。写真のキボシイワハイラックスの本剥製の製作も賛助会費を活用して、完成いたしました。これらの標本について今後も、研究や展示で活用いたします。



作製した標本の一部



キボシイワハイラックス
Heterohyrax brucei の本はく製

● 骨格の修復

マッコウクジラの骨格の修復作業

2005年8月に鹿児島県南さつま市（当時：鹿児島県加世田市）の海岸に打ち上がった個体（体長13.77m、オス）の骨格を新たな展示標本にするため修復しました。

2009年3月に発掘し、2010年の特別展「大哺乳類展－海のなかまたち」、2013年の特別展「深海」でそれぞれ頭部のみ展示しました。その後2019年の特別展「大哺乳類展2」で現在の全身標本を展示し、今回、さらなる補修・整備を行い、常設展示に設置しました。



マッコウクジラの
展示準備の様子



完成したマッコウクジラの常設展示



2020年度は、コロナ禍という特殊な状況の中、賛助会員の皆様にご支援をいただき、様々な博物館活動を実施することができました。今後、さらに充実した博物館活動につながるよう努力してまいります。引き続き多くの皆様にご協力・応援いただくと幸いです。

国立科学博物館 賛助会担当

国立科学博物館 賛助会費を使った活動(2020年度)

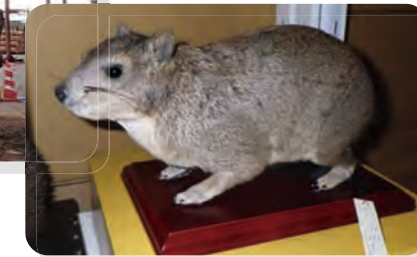
2020年度におきまして、賛助会員の皆様にご支援をいただきました賛助会費により、様々な博物館活動を実施することができました。厚くお礼申し上げます。ここに深く感謝の意を表しますとともに、活動内容の詳細をご報告させていただきます。

青少年の自然科学等への興味・関心の向上 地域博物館等と連携したイベント

熊本県内の1か所の博物館と連携して、コラボミュージアム『生命のれきしー君につながるものがたり』を実施いたしました。



標本資料の製作・受入・保存・修復



- 図面の修復
- マッコウクジラの骨格の修復作業
- 動物園で死亡した個体の標本化
- 埋没樹木標本の受入
- 種子植物標本の受入
- アリヅカムシ標本の受入

国立科学博物館の賛助会制度について

国立科学博物館賛助会は、当館事業の趣旨にご賛同いただいた皆様(会員)から当該事業へご支援(会費)をいただく、1年単位の寄付会員制度です。個人会員と団体会員がごぞいます。ご支援により、青少年の自然科学等への興味・関心の向上に関する事業、地域博物館等と連携したイベント、標本資料の製作・購入・受入・保存・修復等の事業を推進しております。今後もより多くの方にご賛同いただきたく、引き続きご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

入会手続き・優待など、詳しくは、「賛助会員入会のご案内」、当館ホームページをご覧ください。

賛助会 Web サイト <https://www.kahaku.go.jp/about/donation/patronage/index.html>

お問合先：独立行政法人国立科学博物館 賛助会担当

電話番号：03-3822-0111（月～金） メールアドレス：sanjyo@kahaku.go.jp

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20



青少年の自然科学等への興味・関心の向上

地域博物館等と連携したイベント

連携イベントの実施費用として賛助会費を活用いたしました。

● 地域博物館との連携イベントの開催

コラボミュージアムの開催

熊本県内の御船町恐竜博物館と連携して、コラボミュージアム『生命のけしー君につながるものがたり』を実施いたしました。

会場：熊本県 御船町恐竜博物館

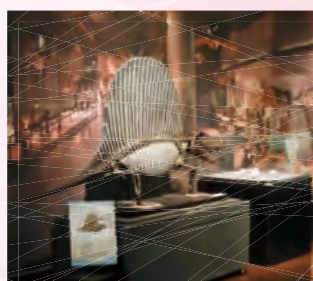
期間：2020年6月2日(火)～7月26日(日)

開催日数：49日 入場者数：6,966人

※2019年度に予定していた「コラボミュージアム」で、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための臨時休館のため、従来の会期予定から変更となり、2020年度に開催となりました。2020年度として、1カ所のみの開催となりましたが、大変多くの方に訪れていただきました。



展示見学の様子



人気展示の「ディメトロドン」



御船町恐竜博物館での展示の様子

標本資料の製作・受入・保存・修復

資料修復の費用として賛助会費を活用いたしました。

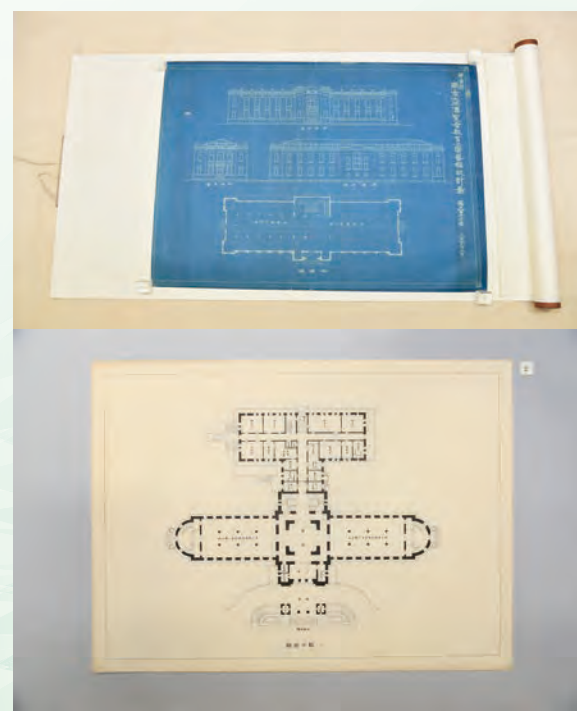
● 資料の保存・修復

「建物・装飾品の青焼き図面」資料の保存修理

上野本館の展示室や調度品の図面について修復を行いました。今後展示等にも活用いたします。



裏打ち作業の様子



修復後の図面の一部

標本資料の製作・受入・保存・修復

コレクション充実のため、これらの標本資料受入費用として賛助会費を活用しました。

● 貴重標本・資料の収集①

大分県日田市約9万年前の阿蘇山の

最大の噴火火砕流に埋没した巨大な樹木標本

同様の埋没樹木は10年前にも日田市内で発見され、国指定天然記念物となっています。火山の火砕流の威力を雄弁に語る貴重な標本です。特別展「植物－地球を支える仲間たち」での展示で公開いたしました。

今後も、研究や展示等で活用いたします。



今回受入を行った巨大な樹木標本

● 貴重標本・資料の収集②

江東区の種子植物標本(帰化植物)700点

「江東区の野草(3巻)」(江東区の企画・編集)の基礎資料となった標本であり、東京ビッグサイトなどの大型埋立地施設の建設予定地で収集されたもので、今はもう見るができなくなった帰化植物も多く含まれます。東京都心の帰化種の時代による移り変わりを知る上でも貴重な資料です。

今後も、研究や展示等で活用いたします。

江東区教育センターに収蔵されていた標本。キャビネットごと寄贈された。



● 貴重標本・資料の収集③

宮田隆輔氏日本産アリヅカムシコレクション約6,350点

採集の難しい微小甲虫であるアリヅカムシ類を永年にわたって蓄積した、極めて充実したコレクションです。

高知県からは現在、115種のアリヅカムシが確認されており、その全種の証拠標本が含まれます。

今後も、研究や展示等で活用いたします。



寄贈されたアリヅカムシ標本



受入標本の収納状況